

「第 19 回実践交流会」 公開シンポジウム「深まりのある探究へと生徒をどう導くか」

開催日

2024 年 3 月 23 日（土）

開催場所

京都大学総合研究 2 号館 第 1 講義室ほか／総合研究 3 号館 講義室（共通 155）

参加人数

実践交流会：E.FORUM 会員 20 名

公開シンポジウム：小中高等学校教員、教育委員会関係者、大学教員等 50 名

後援

国立研究開発法人科学技術振興機構

実施の様子

京都大学大学院教育学研究科 教育実践コラボレーション・センター E.FORUM では、2024 年 3 月 23 日（土）に、京都大学吉田キャンパスにおいて「第 19 回実践交流会」ならびに、公開シンポジウム「深まりのある探究へと生徒をどう導くか」を開催しました。本イベントは、内閣府による SIP（戦略的イノベーション創造プログラム）の課題「ポストコロナ時代の学び方・働き方を実現するプラットフォームの構築」における研究開発「真正で探究的な学びを実現する教育コンテンツと評価手法の開発」（研究開発責任者：松下佳代）の一環として行われました。

「第 19 回実践交流会」は、午前には総合研究 2 号館 第 1 講義室他において、E.FORUM 会員限定で開催しました。東は群馬県から西は広島県まで総勢 20 名の教職員や教育委員会関係者の会員が参加してくださいました。

はじめに参加者の方々に簡単な自己紹介をしていただき、それぞれの関心のあるテーマに沿って、グループ分けを行いました。グループでは、各自が持ち寄った実践資料をもとに交流を深めました。参加者からは、「[交流の成果として] 現在抱える課題の解決の糸口が得られることや、他の方の課題に私の以前の勤務校での経験が役に立ったこと。これらのことが、交流を盛り上げてくれます」「皆さんに実践をお伝えしているうちに、お配りした報告書を作っているときには忘れていた様子が蘇って具体的な課題を見つけました」「[交流会を] 職層で分けないのが、E.FORUM の良さの一つだと実感しています。〈中略〉E.FORUM では、全国の会員の交流の中で、実は職層の交流にもなっている点は見逃せないと思います。〈中略〉横と縦の対話の貴重な機会です」といった感想が寄せられ、とても活気のある会となりました。



同日午後からは、総合研究 3 号館 講義室（共通 155）において、公開シンポジウム「深まりのある探究へと生徒をどう導くか」を開催し、総勢 50 名の教職員や教育委員会関係者、大学教員等が参加されました。本公開シンポジウムでは、探究学習に取り組んでいる高等学校を対象とした訪問調査の結果をもとに、それらの学校がどのように探究学習のカリキュラム・授業・評価を実現しているのかについて、SIP プロジェクトメンバーから報告がなされました。

はじめに、SIP サブ課題 A・研究開発責任者である京都大学大学院教育学研究科の松下佳代教授より本公開シンポジウムの趣旨説明がありました。続いて、神戸大学大学院人間発達環境学研究科の石田智敬特命助教から「中等教育における探究学習をめぐる現状」と題して、広尾学園中学校・高等学校医進サイエンスコース（東京）、京都市立堀川高等学校（京都）、青翔開智中学校・高等学校（鳥取）、北海道鹿追高校（北海道）での事例が紹介されました。京都大学大学院教育学研究科博士後期課程の肖瑤さんからは「探究学習の実践動向と課題」と題して、東京都立王子総合高等学校、東京都立八王子東高等学校、広島県立西条農業高等学校での事例が紹介されました。また、京都大学大学院教育学研究科博士後期課程の岡村亮佑さんからは「探究学習の理論的整理と示唆」と題して、上述の事例をもとに比較検討がなされました。さらに、これらの報告を受けて、京都大学大学院教育学研究科の恩田徹特任教授より論点整理がなされました。フロアからは、さまざまな質問や感想が述べられ、議論を深めることができました。



参加者からは、「探究活動の在り方について、多くの事例をもとに理論的整理がなされていて、自校の取り組みを相対的 [に] 捉えなおすことができた」「なぜ探究活動が必要なのかを、現場の先生方と共有したい。探究活動は、進路教育の再構築であり、『どのように生きるか』という意味でのキャリア教育である、との考え方は示唆に富むものであったと思う」「[本公開シンポジウムについて] 答えがはっきりしているものを報告するのではなく。まだまだ研究段階の点を我々のような一般教員に示していただいたことが本当に意義があることだと思いました」「探究を深める方法を模索している現役実践家、かつての実践家、研究者が一同に会する場があることそのものが最も印象的でした」といった感想が寄せられました。

また、最後に京都大学大学院教育学研究科の久富望助教より、探究を支援するデジタル・ポートフォリオの開発についての実践報告もなされ、参加者からは、デジタル・ポートフォリオの可能性について期待を寄せるお声もいただきました。

E.FORUM では、今後も実践に役立つ知見を得られる、楽しくて元気の出る研修を提供していきたいと考えております。今後ともご支援のほど、よろしくお願いいたします。

※文中の [] 内は、作成者による補足です。

以上